

連体修飾用法、連用修飾用法、終止用法の 分布状況から見た接尾辞「的」の一考察

A Study on the Suffix *teki* Through an Analysis of Distribution in its Usage as an Adnominal Modifier, Adverbial Modifier and Predicate Word

原田 朋子

要 旨

形容詞には、連体修飾用法、連用修飾用法、終止用法の三つの用法があるが、全ての形容詞がこの三つの用法をそなえているとは限らず、量的な面にかたよりがあると先行研究において指摘されている。接尾辞「的」をそなえた形で現れるいわゆる形容動詞（ナ形容詞）には、この三つの用法がどのような割合でそなわっているのかが明らかにされておらず、日本語学習者にとっても、3用法を使いこなすことが困難である。そこで、本稿では、接尾辞「的」をそなえた形容動詞の三つの用法について計量的に傾向を分析した。その結果、全体的には、連体修飾用法が半数以上、連用修飾用法が3～4割程度、終止用法は極めて少ないことが明らかになった。さらに、三つの用法をそれぞれの角度から観察して初めて、分布の傾向別に、Ⅰ連体修飾用法が半数以上で且つ連用修飾用法が少ないもの、Ⅱ連用修飾用法が比較的多く見られ且つ連体修飾用法が少ないもの、Ⅲ連体修飾用法と連用修飾用法が同程度見られるもの、Ⅳ終止用法が比較的多く認められるものという四つのグループに分類することが可能となった。そして、各グループに属する接尾辞「的」と結合した言葉にはどのようなものがあるか、例を挙げて示した。そのことにより、日本語教育の質の向上のためには、具体的にどのような語をどのような用法の例文により示せばいいかという一提言を行うことが可能となった。

キーワード

日本語 接尾辞 的 連体用法 連用用法 終止用法

1 はじめに

形容詞の用法は、連体修飾用法、連用修飾用法、述語としての終止用法の三つに大別されると一般的に言われている。しかし、橋本三奈子・青山文啓（1992）は、形容詞 136 語の意味・用法による下位区分 547 のうち、3用法すべてをそなえているのは 180（31.4%）にすぎないとしている。宮島達夫（1993）も、形容詞の 3用法がある語

形に言及し、その用法の量的な面にかたよりがあると指摘している。また、望月通子(2010)は、日本人大学生と外国人日本語学習者(中国語母語話者と韓国語母語話者)が作った短文の用例を採集し、接尾辞「的」の用法を3用法から見て比較し、日本語学習者の用例は「的な」類の連体修飾用法が67%で著しく比率が高く、逆に、「的に」類の連用修飾用法と「だ」類の終止用法の比率が顕著に低いと特徴付けている。一方で、日本人大学生の使用した用例に関しては、連体修飾用法が45%、連用修飾用法が40%と近似しており、終止用法は15%見られるという分析結果を示している。そして、日本語教育、とりわけライティングの教材や指導への示唆として、「的」付きナ形容詞の(理解語彙と分類して)使用語彙については、文章の質を考えた使い方限定し、過剰使用しないように指導すること、社説を読み教材として使用し、そこでの「的」付きナ形容詞の用法に注意を向けさせること、「的」付きナ形容詞の用例における「的」の用法を考えさせ、「的」を使わずに他の表現に言い換える練習を行うことなどといった点を挙げていることが非常に興味深い。接尾辞「的」の誤用を扱ったこれまでの先行研究においても、たしかに日本語学習者が「的」を過剰使用する傾向が見られるとの指摘が多々あるが、では、具体的にどのようなものを過剰使用しないように注意すればいいのだろうか。別の角度から述べれば、どのようなものについて、連用修飾用法や終止用法を使用できるように、学習者の注意を向けるようにすればいいのかということも明らかにされていない。宮島達夫(1993)が述べているように、形容詞の3用法の中に量的な面にかたよりがあるとすれば、接尾辞「的」をそなえた、いわゆる形容動詞(ナ形容詞)は、全体として、果たしてどのような傾向を示すのであろうか。また、接尾辞「的」に前接する語基によって、かたより方はどのように異なっているのだろうか。

本稿では、上述のような問題提起に対して、接尾辞「的」をそなえた形容動詞の用法の特徴や本質を明らかにしていきたいと考える。その上で、第4章で、日本語教育への一提言を行うこととしたい。

2 接尾辞「的」をそなえた表現

2.1 調査対象

本分析では、前章で述べたような問題提起について、実例をもとに検証するため、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」において、新聞・書籍・雑誌・白書・教科書・広報誌・ウェブページの全てのジャンルを選択し、接尾辞「的」(以下、本文中は「-的」と記述する。)を含む表現を採集した。「-的」が用いられる表現は、実際には数多く存在するが、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」より機械的に任意に抽出した500例の内、「目的」や「的(まと)」などを除き、本分析で採用したデータの個数は455で、252種類である。詳細は表1の通りだが、その中で、出現回数が多かった順に上位20例は「基本的」(21回)、「具体的」(12回)、「積極的」(11回)、「経済的」(10回)、「一般的」(8

回)、「公的」(8回)、「個人的」(7回)、「社会的」(6回)、「魅力的」(6回)、「歴史的」(6回)、「一方的」(5回)、「絶対的」(5回)、「近代的」(4回)、「効果的」(4回)、「効率的」(4回)、「国際的」(4回)、「最終的」(4回)、「性的」(4回)、「総合的」(4回)、「知的」(4回)と続いていた。出現回数3回のもものは20種類見られたが、それらから無作為に選んだ「圧倒的」、「実質的」、「集中的」、「心理的」、「徹底的」の5例を加え、計25例を更なる分析の調査対象とすることとした。なお、出現回数1回のものには、例えば、「草の根的」、「株式的」、「『密教』的」、「課題追究的」、「疑似イエ的」、「記念碑的」、「ハンバーグ的」、「チョット借りました的」等々、辞書に掲載されていないような、臨時的な一時的な表現が多く見られ、「-的」には実に様々な語句が前接し得るために、「-的」の意味や用法が、より複雑化しているものと思われる。

表1 接尾辞「的」をそなえた表現

出現回数 (回)	表現
21	基本的
12	具体的
11	積極的
10	経済的
8	一般的、公的
7	個人的
6	社会的、魅力的、歴史的
5	一方的、絶対的
4	近代的、効果的、効率的、国際的、最終的、性的、総合的、知的
3	圧倒的、安定的、科学的、根本的、自主的、実質的、集中的、重点的、心理的、精神的、生物学的、全面的、戦略的、抽象的、徹底的、伝統的、日常的、抜本的、本質的、理論的
2	一時的、技術的、基礎的、共産主義的、計画的、結果的、健康的、現実的、広域的、公益的、合理的、個性的、時間的、資本主義的、消極的、象徴的、情緒的、人工的、心の、肉感的、人間的、比較的、非日常的、批判的、表面的、物質的、物的、普遍的、文化的、平均的、閉鎖的、法的、楽観的、理性的、理想的、論理的
1	「顕教」的、「密教」的、意識的、イスラム的、意図的、印象的、外生の、壊滅的、学問的、仮想的、加速度的、課題追求的、過渡的、株式的、神的、環境共生的、感性的、感情的、感動的、官能的、機械的、幾何学的、基幹的、危機的、疑似イエ的、機動的、記念碑的、客体的、強制的、競争的、共同的、協力的、距離的、近視眼的、禁欲的、空想的、草の根的、経験的、迎合的、計算的、継承的、継続的、経皮的、劇的、決定的、検察官的、献身的、建設的、幻想的、工業的、攻撃的、公式的、構造的、肯定的、合法的、国民的、財政的、サブイベント的、自己中心的、思想的、私的、質的、自動的、資本的、事務的、主體的、瞬間的、衝撃的、小児病的、将来的、植物的、初步的、人為的、人格的、人口学的、心情的、数学的、数量的、性格的、生産的、正統的、制度的、性能的、世界的、世俗的、潜在的、戦術的、戦時立法的、全体の、専門的、創造的、総体的、相対的、即時的、組織的、即興的、代表的、体力的、妥協的、脱植民地主義的、断続的、断片的、弾力的、中期的、中心的、中性的、中長期的、超越論的、長期的、チョット借りました的、通俗的、定期的、定番的、デカルト的、デュシャン的、電気的、統計的、投資的、道徳的、特権的、内向的、内部的、肉体的、日本の、ネットワーク的、年代的、年齢的、農民的、爆発的、場所的、半永久的、反社会的、反射的、反自由主義的、ハンバーグ的、反幕的、被害妄想的、ピカソ的、悲観的、非市場的、必然的、美的、非党派的、皮膚的、百科全書の、物理的、部分的、分権的、文法的、平面的、包括的、暴力的、法理論的、保護的、保守的、保守主義的、虫メガネ的、明示的、明文的、盲目的、モラリスト的、有責的、楽天的、力学的、靈的、例外的

2.2 計量的分析の方法

まず、前節で選択した調査対象 25 例を再度「現代日本語書き言葉均衡コーパス」において、検索し直し、各々 500 例ずつ抽出し、計 12,500 例を考察対象とした。前節において調査対象を選択した際と同条件で、新聞・書籍・雑誌・白書・教科書・広報誌・ウェブページの全てのジャンルを選択した。考察対象は、「-的」を含む前後文脈の文字数 100 からなる文章とし、用法だけではなく、文脈から「-的」の表す意味もある程度判断できるようにした。

次に、「-的 ϕ 」及び「-的な」の形で現れる連体修飾用法（以下、連体用法と記述する。）、主に「-的に」や「-的には」の形で現れる連用修飾用法（以下、連用用法と記述する。）、「-的だ。/である。/です。」のような終止用法の三つの用法の出現頻度の分布を見るため、計量的分析を試みた。なお、それぞれの集計を行ったが、主に以下のような形や用法は、全体の総数からすると、出現回数が極めて少なかったため、三つの用法の分布の中には含めなかった。以下のもの以外に「その他」としたものの詳細は、表 2 に示す。

- ・「-的で」のような中止用法
- ・「-的になる」、「-的に見える」など述語に準ずるもの
- ・「-的なら / -的だった。 / -的ではない。 / -的だろう。」などの形
- ・「-的だから / -的であるので / -的だが / -的か / -的かもしれない / -的みたい / -的らしい」などの類
- ・「-的なはず / -的なのは / -的なため」など
- ・「-的と言った」、「-的とされる」などの「-的と」の類

また、前接する語基によっては、「-的・○○」、「-的かつ○○」のような並列も一定数 (10 ~ 30 例) 見られたが、三つの用法の分布には含めていない。

表2 三つの用法の分布に含めなかったもの

出現回数 (回)	その他：「-的」に後接するもの
100	・
95	、
85	かつ
33	と
29	だった
11	なこと
10	なんだ
9	および
8	ですが
7	なのは
6	あるいは
5	であった、なので
4	か
3	だが、だし、なのか、なのでしょう、なら、なる
2	／、！、)、かもしれない、すぎる、でした、でしょう、ではなかった、でもない、 とは言えない、ないし、の意味、または、みたい
1	？、…、or、が好きで、かと、かどうか、かは、かも？、から、系、さの漂う、そして、 だから、だからだ、だけど、だっただろうが、だったはず、だったんだろう、だと思う、 だと考える、だろう、ってことだよ、であったが、であり、であるが、であるので、 であればあるほど、であろう、でしたよ、でしょうか、でない、ではありませんでした、 ではないか、ではないでしょうか、ではないので、ではなくて、でもいい、 とせざるを得ない、となっている、とは、とは限らない、とは考えられない、 と判断される、と見なし、とも、とも思える、なために、なの、なの？、なのが、 なのかもしれません、なのだろう、なのです、なのよ、ならびに、なんだって、なんだろう、 なんです、に過ぎない、にですが、にではなく、の両方の、への、もしくは、や、やなあ、 らしい、を感じる

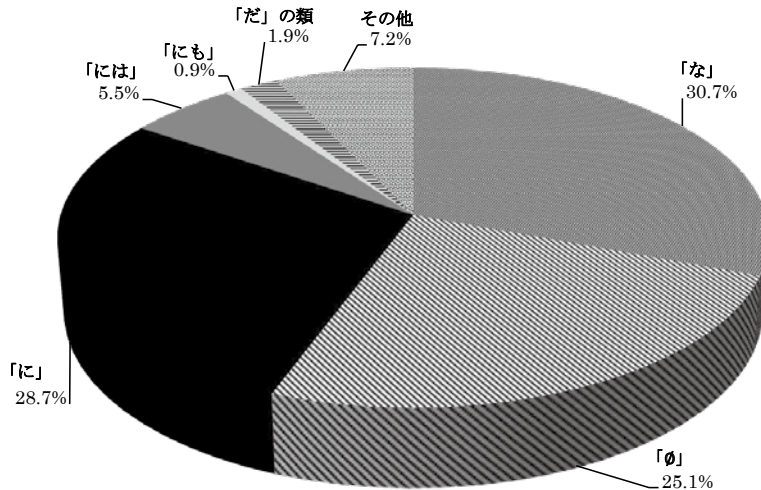
2.3 接尾辞「-的」の三つの用法の分布

「-的」を含む表現の連体・連用・終止の三つの用法を全体として見ると、図1のようなバランスになった。その内訳は、「-的な」(30.7%)や「-的φ」(25.1%)の形で連体修飾としてはたらくものが計55.8%と半数以上を占めている。続いて、「-的に」(28.7%)、「-的には」(5.5%)、「-的にも」(0.9%)のように連用修飾としてはたらくものが計35.1%に達している。「-的だ。」や「-的である。」等の終止用法は1.9%に過ぎず、「-的だった。」のようなテンスが過去のものを含めても2.2%に留まっている。表2のように、その他としたものの中には、述語性のあるものが多く見られたのだが、それらを仮に終止用法に含めたとしても、10%にも満たない。よって、「-的」をそなえた形容動詞には、宮島達夫(1993)が述べていたように、三つの用法の中に量的な面で大きなかたよりが見られることが明らかになった。そのことは、大枠として、連体用法が半数を越え、連用用法が3割から4割、終止用法は1割未満で際めて少ないという傾向を示すものだと言える。

次に、「-的」に前接する語基によってのかたより方はいかなるものなのか、連体用法、

連用用法、終止用法の三つに分けて考察していく。

図1 連体・連用・終止の三つの用法の分布



3 連体用法、連用用法、終止用法のそれぞれから見た「一的」

3.1 連体用法から見た「一的」

前章で調査対象とした25種類の「一的」計12,500例のデータを細分化し、連体用法の観点から計量的な観察を行った。「一的な」の観点から示したものが図2であり、「一的 ϕ 」の観点から示したものが図3である。

「一的な」の形で使用されるもので最も顕著なものは「近代的な」が約6割、「絶対的な」、「魅力的な」、「国際的な」が約5割弱、「総合的な」、「効率的な」が約4割、「具体的な」、「基本的な」、「効果的な」、「一般的な」、「実質的な」等が3割近くを占めていた。反対に、「知的な」、「徹底的な」、「公的な」等は1割弱から1割強に過ぎない。

一方で、図3のとおり、「一的 ϕ 」の形で使用されるものには、「公的 ϕ 」、「知的 ϕ 」が8割弱で最も多く見られ、「性的 ϕ 」、「社会的 ϕ 」が約6割、「歴史的 ϕ 」が5割強、「心理的 ϕ 」、「経済的 ϕ 」が4割強と続いていた。

総じて述べると、「近代的」、「絶対的」、「国際的」、「公的」、「知的」、「性的」、「社会的」、「歴史的」などが、連体用法として使われる用例が多いと言える。

図2 「-的な」から見た分布傾向

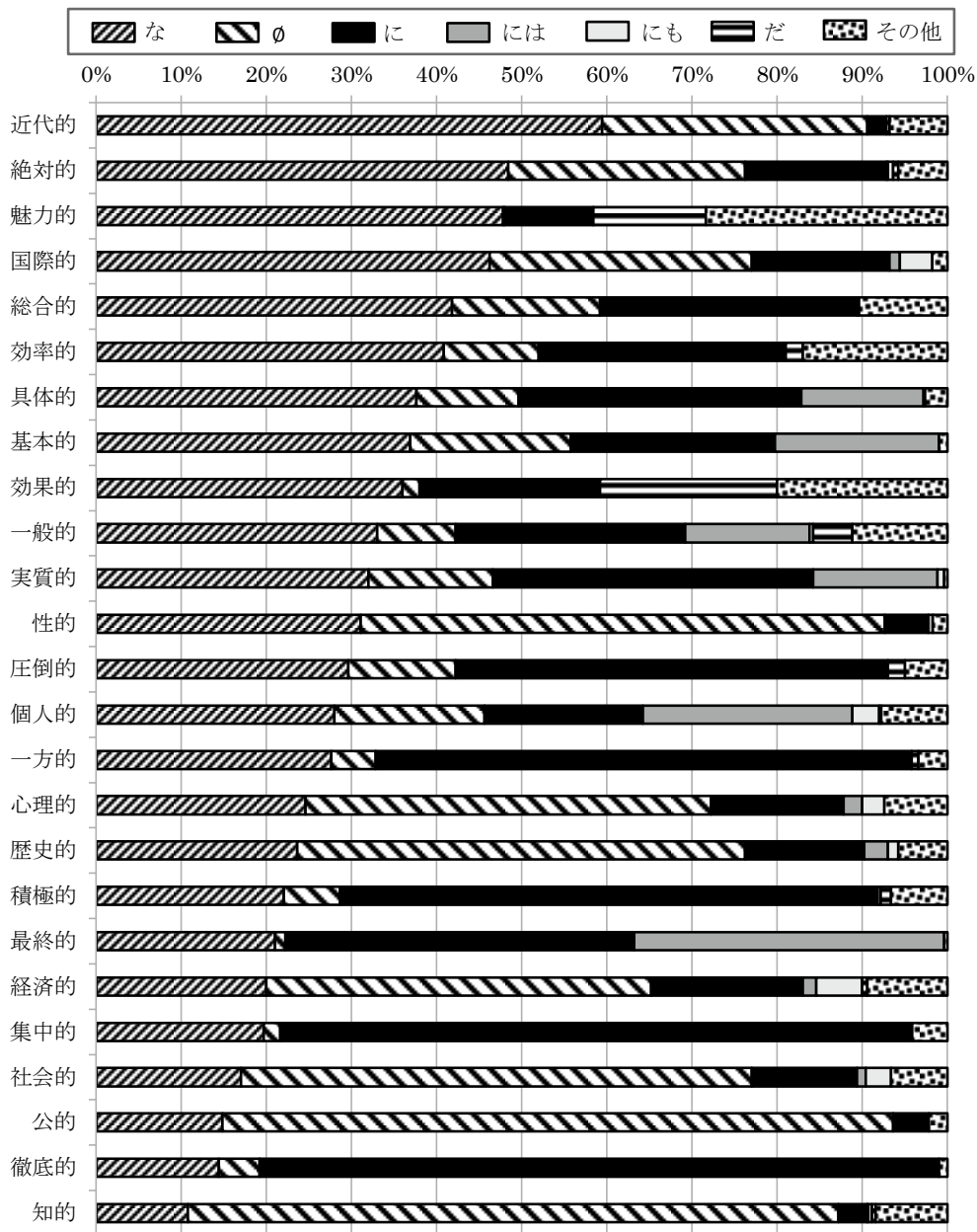
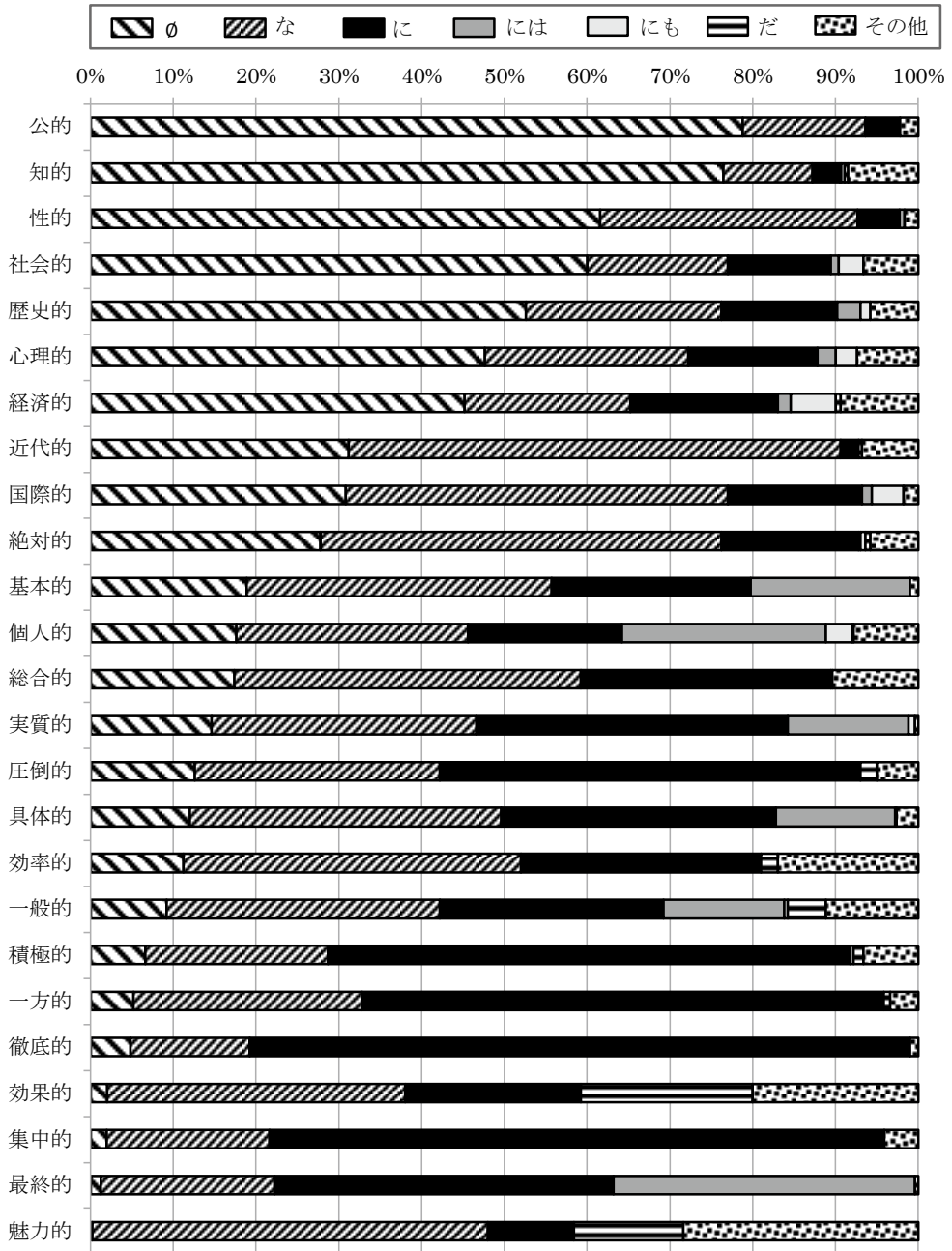


図3 「一的φ」から見た分布傾向



3.2 連用用法から見た「一的」

前節と同様のもを対象に、連用用法を計量的に観察し、図4に示した。その結果、「徹底的」は、「一的には」、「一的にも」を含めない「一的に」の形単独であっても8割近くを連用用法が占めることが明らかになった。同じく、「集中的に」は7割強、「積極的に」、「一方的に」は6割強、「圧倒的に」はほぼ半数を連用用法が占めていた。「一的には」の形を含めると、「最終的に」と「最終的には」が合わせて7割を上回り、「実質的に」と「実質的には」及び「具体的に」と「具体的には」が約半数近く使用されていた。「一的には」に関しては、「最終的には」、「実質的には」、「具体的には」の他にも、「一般的には」、「基本的には」、「個人的には」等も、2割弱から2割強の割合で出現していた。

とりわけ「個人的には」については、「個人的に」を少し上回るほど出現しており、「一的に」と「一的には」が半数ずつを占めていることが明らかになったが、これは一体何を意味するのだろうか。詳しい分析は続稿に譲りたいと考えるが、ここで、文脈における意味を判断しながら考察したことに触れておく。

原田朋子（2015）の考察において、「男性的」及び「女性的」を例に挙げ、連体用法、連用用法、終止用法の他にも終止用法の中止形、引用、形容詞副詞、提示的なもの等以後接形態を分類したが、その中で、次のような例が見られた。

- (i) 男性的にふるまう。
- (ii) 男性的には女性から告白されるより、自分から告白したいそうですよ。

原田朋子（2015）では、(i)を連用用法、(ii)を提示的なものと位置づけたが、本研究で考察した「個人的に/個人的には」には相当数の提示的な意味を表すものがあることが不可解に思われた。というのも、「個人的に/個人的には」が「わたし的に/わたし的には」のような意味・用法で使用されているものが多く存在したのである。「わたし的には」という表現は、2000年に流行語に選ばれた頃から使われるようになり、このところは2000年辺りほど多く耳にしなくなったように思われるが、「わたしは…と思う。」のような言い方で自分の意見を直接的に表現するのではなく、「わたし的には…と思う。」のように自分の意見を婉曲的に遠回しに表現する使い方として、広く知られている。「個人」は「わたし」のような代名詞ではないが、「わたし」や「自分」を意味するものでもあることから、このように提示的に使用されているものが多く、「個人的に」や「個人的には」の出現数が増えているのではないかと考え、「個人的に」及び「個人的には」を先の調査対象から別に取り出し、それぞれ「わたし的に」及び「わたし的には」と置換できるかどうかを二人の日本語母語話者で判定した。置換可能かどうか、判断のつかないものも2、3例あったが、「個人的に」93例のうち、「わたし的に」と置換可能だと判断されたものは例文(1)のようなもので、12例見られた。また、

「個人的には」123例のうち、「わたし的には」と置換可能だと判断されたものは例文(2)のようなもので、実に106例も見られた。ただし、ブログなど、インターネット上の書き込みの例が多かったことを付け加えておく。

一方で、「わたし的に」あるいは「わたし的には」と置換不可能なものも、例文(3)、(4)のように見られ、これらは純粹なる連用用法であろう。当然のことながら、原文が「わたし個人的には…」となっているものも、「個人的には」の部分を「わたし的には」に置換すると「わたしわたし的には…」となるので、「わたし的には」と置換することはできないものとした。

その他、「個人的」には「-的にも」の形は非常に少なかった。

- (1) 以前、ニューカレドニアに行った時に、買ってあった貝殻のネックレスをほどいて、ビーズなどをいれて……ちょっとさみしいと思ったけど、リボンじゃ普通になっちゃうので……シュシュの糸で、リボンにしてみました。個人的に (→わたし的に) とても気に入っているのは、ククイナツの上に乗ってるこの部分です♪

『Yahoo! ブログ』 Yahoo!、2008年

- (2) 伊東美咲の鼻、小雪の鼻、松嶋菜々子の鼻の下。気になりませんか??三人とも気になるなあ。松嶋さんの鼻の下ずいぶん長いよね……。きれいな方ですけど……。個人的には (→わたし的には) 竹内結子の鼻の穴が気になる……。

『Yahoo! 知恵袋』 Yahoo!、2005年

- (3) 彼は言った。「ミス・ホランドと同居のお嬢さんの一人がシャルパンティエ夫人を個人的に (*わたし的に) 知っていたと思います—butミス・ノーマ・レスタリックです」

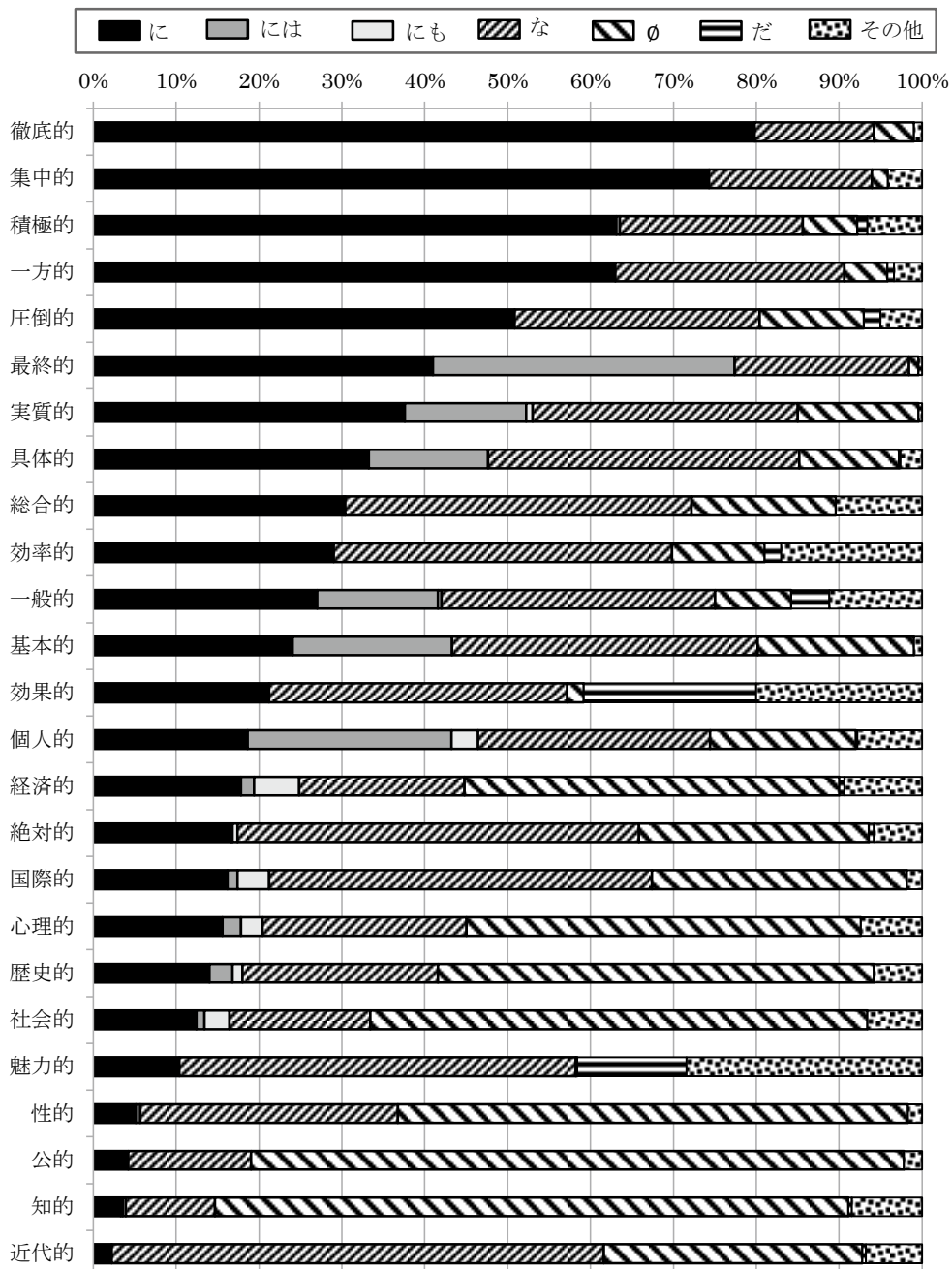
『第三の女』 アガサ・クリスティー (著) 小尾美佐 (訳) 早川書房、2004年

- (4) 戦争で悲惨な死者が出るのですから、遺族も同胞意識をもつ人も哀しみの感情に襲われます。そのような哀悼の意を表明するために、個人的には (*わたし的には) もとより公的にもさまざまなことが行われました。

『国家と犠牲』 高橋哲哉 (著) 日本放送出版協会、2005年

以上、「個人的に」に関しては補足することもあったが、連用用法から見た「-的」について総じて述べると、「徹底的に」、「集中的に」、「積極的に」、「一方的に」、「圧倒的に」、「最終的に」等が連用用法として使用されやすいということが明らかになった。

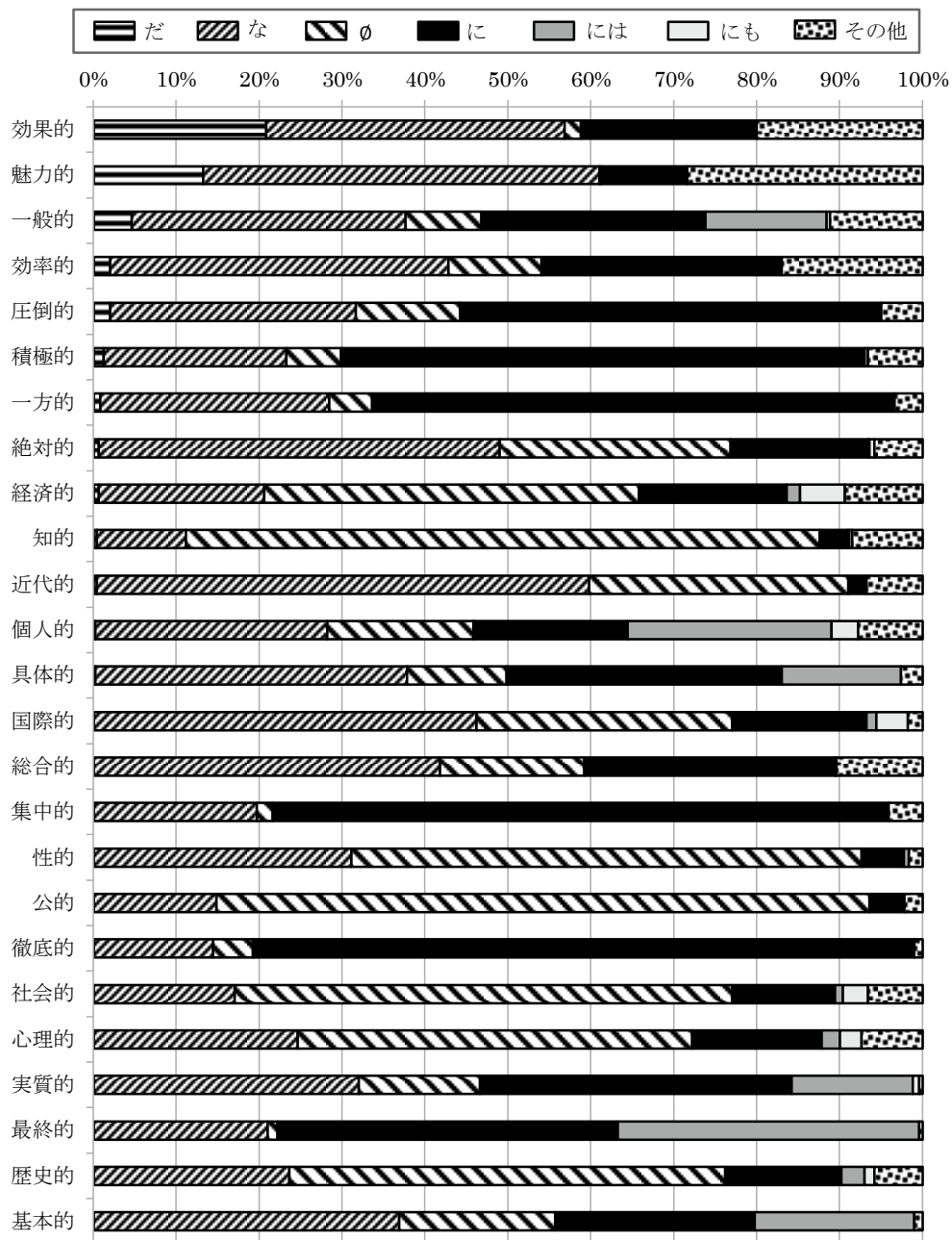
図4 連用用法からみた分布傾向



3.3 終止用法から見た「-的」

図5に終止用法を計量的に観察した結果を示す。第2章で述べたように、「-的だ。」や「-的である。」等の終止用法は「-的」の全ての語句の中では、1.9%に過ぎず、極めて少ないと言えるのだが、図5のように個別に見ていくと、ある特徴が見て取れる。全体としては終止用法がほとんど見られない中で、「効果的だ」と「魅力的だ」は終止用法が2割程度も見受けられるのだ。他にも、「一般的だ」、「圧倒的だ」、「効率的だ」等も僅かながら終止用法が見られる。また、終止用法が比較的に見られた「効果的だ」と「魅力的だ」には、表2で「その他」と分類したものも多い。表2の「その他」の中には、様々な形が混在しているため、今回は終止用法に含めなかったが、実際には述語性の高いものも多かったのである。とはいえ、これらが終止用法として使用されやすいとまでは断定できない数値である。しかしながら、「-的」の中には、「効果的だ」、「魅力的だ」のような終止用法として使われるものもたしかに存在することが判明した。

図5 終止用法から見た分布傾向



3.4 「一的」の総合的な分類

「一的」について、連体用法、連用用法、終止用法のそれぞれを考察してきたが、それらの特徴から、総合的に見ると、概ね以下の四つのグループに分類でき、各グループに属する「一的」にはどのようなものがあるのかが分かる。

- I 連体用法が約50%以上であり且つ連用用法が少ないもの
近代的、絶対的、国際的、総合的、効率的、性的、心理的、歴史的、経済的、社会的、公的、知的
- II 連用用法が約50%以上であり且つ連体用法が少ないもの
徹底的、集中的、積極的、一方的、圧倒的、最終的
- III 連体用法と連用用法が同程度のもの
一般的、具体的、実質的、基本的、個人的¹
- IV 終止用法が比較的多く見られるもの
効果的、魅力的、一般的

IVに属する「一的」の数は少ないが、IVには述語性が高く、評価性の高いものが属している。また、IVに属するものは、I、IIに属するものに対して、連体、連用、終止の三つの用法をそなえているという特徴があると言えよう。

4 日本語教育への示唆

4.1 日本語教育における「一的」の扱い

1984年に始まり25年ほど続いた日本語能力試験（以下、旧日本語能力試験と記述する。）では、国際交流基金によって出題基準に語彙リストが公開されていた。旧日本語能力試験基準の1、2級の語彙の選定基準では、形容動詞（ナ形容詞）が語幹表示されていたため、「～的」²のみとは別に挙げられていたのは、1級語彙としては「静的」、「知的」、2級語彙としては「消極的」、「積極的」、「比較的」のみであった。旧日本語能力試験の出題基準では、語彙リストに挙げられていない語についても、語彙リストに挙げられている語（接辞や造語成分を含む）の組み合わせにより構成される語で、構成部分を見れば語の意味の類推が付きやすい語は、語彙リストに含まれているものとすると言われていたことから、例えば「具体」、「重点」、「普遍」、「本格」等の接尾辞「一的」と結合しやすい語も「～的」とは別に単独で挙げられていた。また、「公」は「おおやけ」、「病」は「～病」として挙げられていたので、「公的」や「病的」といった使い方は類推しにくいという側面があったものと思われる。

その後、日本語学習者の多様化、日本語学習の目的の多様化にともない、2010年から新しい日本語能力試験が実施されるようになったが、国際交流基金による出題基準において、語彙リストが非公開となった。そのような状況の下、数々の日本語能力試験対策本では、より一層、様々な工夫が凝らされるようになっていったと考えられる。「-的」に関して言及すると、接尾辞「-的」と結合する語を単独で取りあげて指導するようなケースはあまり見られないようだが、特に『新完全マスター語彙 N2』の中の第2部7章の語形成では、品詞が変わることが多い漢字として、「基本的」、「一般的」、「社会的」、「経済的」、「国際的」、「効果的」、「精神的」、「協力的」、「具体的」など使用頻度の高いものが例として挙げられていることは高く評価されるべきであると思われる。ただし、どの語がどのような品詞に変わるのかは明確に示されていない。

また、同じく『新完全マスター語彙 N2』では、第1部において、話題別に、接尾辞「-的」と結合する語が多く挙げられている。以下に、掲載されている例を挙げる。

- ①「人間」に関するもの
 - ・「人の性格・特徴」に関わる言葉
 - 「積極的」、「消極的」、「心理的」
 - ・「人に対する感情・行動」に関わる言葉
 - 「反抗的」、「道徳的」、「理想的」
- ②「生活」に関するもの
 - ・「健康」に関わる言葉
 - 「衛生的」
- ③「趣味・娯楽」に関するもの
 - 「印象的」、「古典的」
- ④「社会」に関するもの
 - ・「行事」に関わる言葉
 - 「伝統的」、「形式的」
 - ・「政治・法律・歴史」に関わる言葉
 - 「財政的」
- ⑤「科学」に関するもの
 - ・「科学・技術」に関わる言葉
 - 「人工的」、「科学的」、「技術的」

その他、第2部7章の語形成の中の「単語の前に漢字をプラス」するものの中にも、「反～」に続くものとして「反社会的」、「半～」に続くものとして「半永久的」も含まれている。全ての言葉についてはではないものの、次のような例文や練習問題も挙げられている。例文の下線は筆者による。

- (例1) 赤いものを見ると元気になるなど、色は人間に心理的な影響を与えると言う。
- (例2) ここは広くてきれいで、私にとっては理想的な家だ。
- (例3) 怒られたからといって、すぐに反抗的な態度を取るのはいくはない。
- (例4) 衛生的な生活をする。
- (例5) 今度の旅行で最も印象的だったところはどこですか。
- (例6) その事故のニュースは、驚きでしばらく言葉も出ないくらい衝撃的だった。
- (例7) 伝統的な行事を行う。
- (例8) 政府が財政的な課題に取り組む。
- (例9) 作物を人工的に作る。
- (例10) その国で自動車を生産することは、まだまだ技術的に難しい。

たしかに、話題別に分け、上記のような例文において、意味の似た言葉を選択肢として出題し、正しい言葉を選ぶという練習などは、意味を理解する上で重要である。

『新完全マスター語彙 N1』では、『新完全マスター語彙 N2』のように、「語形成」の章が別に設けられて接尾辞「-的」と結合する語がまとめて提示されているわけではないが、『新完全マスター語彙 N2』と同様に話題別に、以下のような例が挙げられている。なお、『新完全マスター語彙』N1およびN2には、「-的な」の形でナ形容詞であることが分かるように示してあるものもあるが、以下では活用語尾の「な」を省略して記す。

- ① 「人間」に関するもの
 - ・「性格・人柄」に関わる言葉
 - 「社会的」⇔「非社会的」、「楽観的」⇔「悲観的」、「好意的」、「個性的」
- ② 「生活」に関するもの
 - ・「医療・健康」に関わる言葉
 - 「先天的」
- ③ 「芸術・スポーツ」に関するもの
 - 「独創的」
- ④ 「教育」に関するもの
 - 「保守的」、「革新的」、「模範的」、「実践的」
- ⑤ 「メディア」に関するもの
 - 「大々的」
- ⑥ 「社会」に関するもの
 - ・「経済・産業」に関わる言葉
 - 「段階的」
 - ・「政治・法律・歴史」に関わる言葉
 - 「基本的人権」、「抜本的」

⑦「科学」に関するもの

- ・「技術」に関わる言葉
→「画期的」、「革命的」

⑧「抽象概念」を表すもの

- ・「関係・変化」に関わる言葉
→「劇的」

他にも、「意味が似ている言葉」の章において、「とっさに」や「思わず」とともに、「反射的」がN1の語彙として挙げられている。また、以下のような例文や練習問題も掲載されている。以下の例文の下線は筆者による。

(例 11) 国民の多くが今回の政府の決定に対して好意的だった。

(例 12) 彼は、保守的な考えを持った親の下で、厳格に育てられたようだ。

(例 13) 成績はいつも優秀で、模範的な学生でもあったので、奨学金をもらっている。

(例 14) マスコミはそのニュースを大々的に取り上げた。

(例 15) そのゲーム機は間もなく大々的に売り出される予定だ。

(例 16) 法人税率を段階的に引き上げる方針が示された。

(例 17) 政府は段階的にその政策を導入していく計画だ。

(例 18) 制度が抜本的に改革される予定だ。

(例 19) 画期的な発明をする。

(例 20) 状況が劇的に変わる。

(例 21) 突然人が飛び出してきたので、反射的にハンドルを切った。

このように、例文や練習問題にN1語彙として提示されている「-的」とN2語彙に提示されている「-的」を比較して見てみると、N2対策本の方に、筆者の先の計量的な分析で採取した使用頻度の高いものと同じような語がより多く含まれている。つまり、N1の方には、日本語母語話者でも使用頻度がそれほど多くはない語が多く見られ、より難易度が高くなっていることが分かる。先にも触れたが、『新完全マスター語彙』のように話題別に例が提示されていることは、接尾辞「-的」と結合する語の意味を理解する上で大変分かりやすく、学習者の大きな助けとなる。また、(例 14)と(例 15)や、(例 16)と(例 17)のように、例文が複数示されていると、日本語の理解度が非常に高い学習者なら、「大々的」が「取り上げる」や「売り出される」のような動詞と共起しやすいことや、「段階的に」が「徐々に」の意味で連用用法として使用する傾向があることを類推できるかもしれないが、用法の詳細は定かではない。他にも『日本語能力試験』対策 日本語総まとめ N1 語彙』にも「画期的」、「客観的」、「主観的」、「自発的」、「強制的」、「圧倒的」、「根本的」等の「-的」と結合する語が挙げられており、

対策本によって多少の違いが見られる。しかしながら、数々存在する日本語能力試験の対策本には共通して、どのような「-的」が、どの用法、すなわち連体用法、連用用法、終止用法のいずれの（または複数の）用法で使用されやすいのか、用法については言及されておらず、それぞれの用法別に例文が示されているものもほとんど見当たらない。

4.2 日本語教育への一提言

日本語学習者がライティング等の場面で「-的」をそなえた形容動詞（ナ形容詞）を正しく使用できるようになるためには、望月通子（2010）が述べているように、文章の質を考えた上で、過剰使用しないように指導することもたしかに効果的である。また、主に連体用法の「-的（な）」の誤用については、先行研究でも多くの指摘がされている。ただし、「-的」の用いられ方について、そもそも「-的な」及び「-的ゆ」の形の連体用法が多く使用されるという「-的」本来の性質を考えると、連体用法が多く使用されているのは当然のことかと思われる。連体用法の誤用については、筆者自身も詳しく分析することを今後の課題としているが、先に述べたように、日本語能力試験対策本などには、どの語がどのような用法で使用されやすいかを今一歩踏み込んで明示する必要があると思われる。

具体的に述べると、「-的」には「-的だ。」のような終止用法が少ないという特徴があることから、終止用法として使用されやすいものには、実際にどのようなものがあるかを示すことが重要であり、それは、日本語学習者にとっては連体用法の使用よりもはるかに難しいものであると思われる。

以下では、本稿の総括として、終止用法に焦点を絞り、日本語教育への一提言を記すこととする。

本稿の3章までの分析と同じ条件で、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」において、新聞・書籍・雑誌・白書・教科書・広報誌・ウェブページの全てのジャンルを選択し、終止用法のみを再度検索し直した結果、「-的だ。」を抽出すると、500例の中から89例抽出できた。そのうち、出現回数が1回のみのもので除くと、「一般的」（11例）、「効果的」（9例）、「印象的」（8例）、「対照的」（7例）、「魅力的」（7例）、「衝撃的」（3例）、「実用的」（2例）、「非現実的」（2例）、「病的」（2例）、「良心的」（2例）の10種類のみだった。

望月通子（2010）において挙げられていた日本語学習者のエラーは、終止用法では、「*不可能だ→不可能だ」、「*神経質だ→神経質だ」であるが、そこで指摘されているとおり、それらの誤用はもともと語基に「-的」が結合しないタイプである。「-的」には、例えば「基本だ。」は使われても「基本的だ。」のような終止用法がほとんど見られないという傾向があるのだから、上記に挙げた10種類の「-的だ。」のような例を取りあげ、終止用法の例文を示し、日本語学習者に使用方法を指導することも有効なのではないかと考える。以下の(5)～(7)には「現代日本語書き言葉均衡コーパス」

連体修飾用法、連用修飾用法、終止用法の分布状況から見た接尾辞「的」の一考察（原田 朋子）

の中で実際に見られた例文を示すが、それらを参考に日本語学習者用に日本語能力に合わせた作例をすることも可能であるとする。

- (5) 乾布まさつは、ゼンソクや鼻アレルギーには最適である。ただしヒフ病の人はかゆみが増すことがあるので、冷水かぶりのほうが効果的だ。

『アレルギー体質改善はこれしかない』西田達弘（著）リヨン社、1984年

- (6) 沖縄では、地元のサラリーマンは退社後、一度自宅に戻り、一風呂浴び食事をし、十時頃一杯飲みに出かけるのが一般的だ。酒場は十二時を過ぎてやっと賑わうのだ。

『ドリアン之歌』マイク濱田（著）文芸社、2003年

- (7) 白いアオザイの制服姿の女学生もバイクに乗っていた。純白のアオザイと風になびいた黒髪が印象的だ。ここはベトナムなのだと実感した。

『トホホなベトナム のほほんラオス』佐田亜矢（著）日本文学館、2005年

また、他にも正用を示す場合、次の例文(8)、(9)の「魅力的だ」と「魅力だ」のように、(8)の「魅力的だ。」は彼女の「どんな」ところが魅力で、(9)「魅力だ。」は彼女の「何が」魅力なのか、「-的」が付くと、どのような用法になるのか、その違いも押さえておくべきであろう。

- (8) 可愛いというか、素直というか、有名作家になってからは、いろいろ批判も多かった林芙美子だが、こういふくだりを読むと、実に率直で魅力的だ。

『夢の日だまり』川本三郎（著）日本文芸社、1993年

- (9) 「エルはそういうところがかわいいんだよな。絶対に変わらないのが君の魅力だよ。ヒキガエルに囲まれていても、大学祭クイーンだ。学生登録に現れたとき、どうしようかと思ったよ。すごく…そぐわない感じがして」ワーナーは、エルのふっくらした、魅惑的な顔を見つめながらにっこり笑った。

『キューティ・ブロード』アマンダ・ブラウン（著）鹿田昌美（訳）ソニー・マガジンズ、2002年

最後に連用用法にも触れておく。連体用法は言うまでもないが、上記のような終止用法の例を具体的に示すとともに、連用用法の指導も今後強化すべきだと思われる。なぜなら、日本語学習者の文において、連用用法は終止用法ほど著しく使用例が見られないわけではないが、望月通子（2010）にも、日本人大学生の文には連体用法と連用用法の比率が近似しているが、日本語学習者の文には連用用法の比率が低いとされ

ているとおり、連体用法ほど連用用法がうまく運用できないことに起因するからである。前章で、連用用法が多く見られるものには「-的な」及び「-的ゆ」の連体用法が少ないことを指摘したが、具体的には「徹底的に」や「集中的に」のような、連用用法として使われやすいものを例に挙げて指導するということに注意を向けることも、これらの弊害を避けるための一つの方法であると思う。

5 おわりに

本稿では、まず、「-的」をそなえた形容動詞について、連体用法、連用用法、終止用法の三つの用法のうち、量的な面でかたよりがあるとすれば、どの用法にかたよりがあるのか、その特徴を計量的観点から考察してきたわけであるが、その結果、「-的」が結合する語は、全体的に見ると、連体用法が半数以上、連用用法が3～4割、終止用法は1割未満で際めて少ないという傾向を示すことが明らかになった。また、連体用法、連用用法、終止用法のそれぞれの角度から、「-的」に前接する語基によってのかたより方を分析し、具体的にいかなる語基が前接する「-的」が、どのような傾向を示すのかを考察した。そして、四つのグループに大別し、各グループに属する「-的」にはどのようなものがあるのかも例を挙げて示した。加えて、それらの考察から、日本語学習者への効果的な指導のために、実際に、どのような「-的」を例に取りあげた上で、意味だけではなく、用法にまで踏み込んだ指導が必要かという一提言を行った。今後はさらに、「-的」に関して日本語学習者の理解力を深めるために、日本語能力試験対策本に掲載されている「-的」を含む語についても、筆者が示した四つのグループに属するかを分析し、それらの一つ一つに、どのような例文を提示すべきかを詳細に検討する必要があると思われる。

注

- 1 「個人的」には「-的に」の他にも「-的には」の形が多く見られるが、「個人的に／には」には、提示的な使われ方も含まれているようだ。
- 2 旧日本語能力試験の出題基準の語彙リストには「～的」が掲載されていたため、本稿の「-的」という表記と区別して「～的」と表記した。

参考文献

- 伊能裕昆・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保保きみ枝・宮田公治（2011）『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N2』スリーエーネットワーク
———（2014）『新完全マスター語彙 日本語能力試験 N1』第4刷，スリーエーネットワーク
遠藤織枝（1984）「接尾語『的』の意味と用法」『日本語教育』53号，日本語教育学会，pp.125-138.
金田一春彦・池田弥三郎編（1998）『学研 国語大辞典』第二版，学習研究社

連体修飾用法、連用修飾用法、終止用法の分布状況から見た接尾辞「的」の一考察（原田 朋子）

国際交流基金（2002）『日本語能力試験 出題基準 [改訂版]』，凡人社

佐々木仁子・松本紀子（2014）『「日本語能力試験」対策 日本語総まとめ N1 語彙』第9刷，株式会社アスク出版

丹保健一（1997）「形容詞の連体，連用，終止用法の出現頻度と意味との関連性をめぐって：『高い』『広い』『寂しい』を例として」『三重大学教育学部研究紀要』第48巻，人文・社会科学，三重大学教育学部，pp.9-18.

橋本三奈子・青山文啓（1992）「形容詞の三つの用法：終止，連体，連用」『計量国語学』18巻5号，計量国語学会編，pp.201-214.

原田朋子（2015）「接尾辞『的』に関する一考察－『男性的（な）』と『女性的（な）』を例に－」『同志社大学日本語・日本文化研究』第13号，同志社大学日本語・日本文化教育センター，pp.45-70.

———（2016）「接尾辞『的』の連体修飾用法『-的φ』と『-的な』に関する一考察」『同志社大学日本語・日本文化研究』第14号，同志社大学日本語・日本文化教育センター，pp.1-27.

原由起子（1986）「特集・接辞 - 的 - 中国語との比較から -」『日本語学』，明治書院，pp.73-80.

宮島達夫（1992）「調査報告 形容詞の語形と用法」『計量国語学』19巻2号，計量国語学会編，pp.94-104.

望月通子（2010）「接尾辞『～的』の使用と日本語教育への示唆－日本人大学生と日本語学習者の調査に基づいて－」『外国語学部紀要』第2号，関西大学外国語学部，pp.1-12.

山下喜代（1999）「字音接尾辞『的』について」『日本語研究と日本語教育』，明治書院，pp.24-38.

例文出典

「現代日本語書き言葉均衡コーパス」大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所